

世界の場で「プレイ」しよう

More Global, More Reliable with Autopaints



常務取締役
自動車塗料本部長
大平和彦
Kazuhiko OHIRA

「塗料の研究」を日頃御愛読いただき、又当社の技術開発活動、研究活動にいろいろと御提言いただき誠に有難うございます。

昨年夏以降のタイ、インドネシア、マレーシアなど東南アジアに於ける通貨下落に端を発した不況～生産活動の停滞や、我が国の金融不安、株価低迷、消費停滞等々、重苦しい閉塞状況が続いています。アジアの主たる自動車生産国も90年代中盤の高度成長が嘘であったかのように生産を縮小し、工場閉鎖、レイオフ、解雇など問題は深刻化し、一部の地域では危機管理上、駐在員を一時帰国させるなど、今迄にない緊迫した状況になっています。

アジアを始めとする自動車の海外生産への塗装面からの対応を重視する施策を取り続けて来た当社にとって、この苦しい時期をどのようにして乗り越えていくかの課題については次のように考えています。

1) アジアに向けて新しいノウハウを提供し、技術移管する。

海外生産車の塗装・塗膜の商品力向上への期待は今後ますます強まるであろう。ヨーロッパ車、アメリカ車のアジアへの進出が次第に大がかりとなり、これらと日本車が競合するという意味で塗装生産性をはじめ新色の設計や変更～立上げのスピードが商品力に大きく影響を与えるようになっていくと考えられます。最新のK/Hパッケージを当社のパートナーにいち早く供与し、海外生産も国内と同時立上げ出来るような体力を養っていくことが画一的でない個別要求や様々なご期待に副うことにつながり、この苦況を乗り切る糧となるように思います。

2) ラインサポート体制と、その「動き」を充実させ責任を果たす。

海外生産に於ける塗装のトラブルは時として大問題となります。トラブルシューティングは初期の見立てと、原因推定、仮説の確認、塗料、塗装条件に対し打つ手の提案～試行など、技術力と同時に諸般の調整力が必要で、日頃からの人間関係などの構築が重要であります。各国～各ラインと日本の情報共有化をすすめると同時に、駐在員～国内技術者～現地マネジメント～現地技術者の動きを確かなものへ成長させるよう具体的に指導していきます。

現地の生産や塗装の出来栄に関して我々がインタレストを持っていることをパートナーに対して強く発信し続けることが重要であり本課題の成否を決定付けることになると思えてなりません。

幸いにして当社の平塚市にある技術開発センターは技術研究所の充実に加えて色彩研究所、塗装技術研究所が設立され、その成果も出始めました。開発された新商品の中にはご期待に副えるものも少なくないと思います。

長野で開催された冬季オリンピックは白銀の世界で展開された数々の感動のドラマを提供してくれましたが、自動車塗装に関し、世界の場で「プレイ」するということはマネーフローを含め諸々の困難を乗り越えて技術・商品開発に努め、それを上手に国際市場に向けて展開する国際ネットワークの動きが評価されるということであると思います。

当社は国境を越えた仲間達と力を併せて一つ一ついい仕事を積み重ねながら着実に成長していけるよう努力を続けます。

これからも相変らぬ御愛顧と御指導をお願い申し上げます。